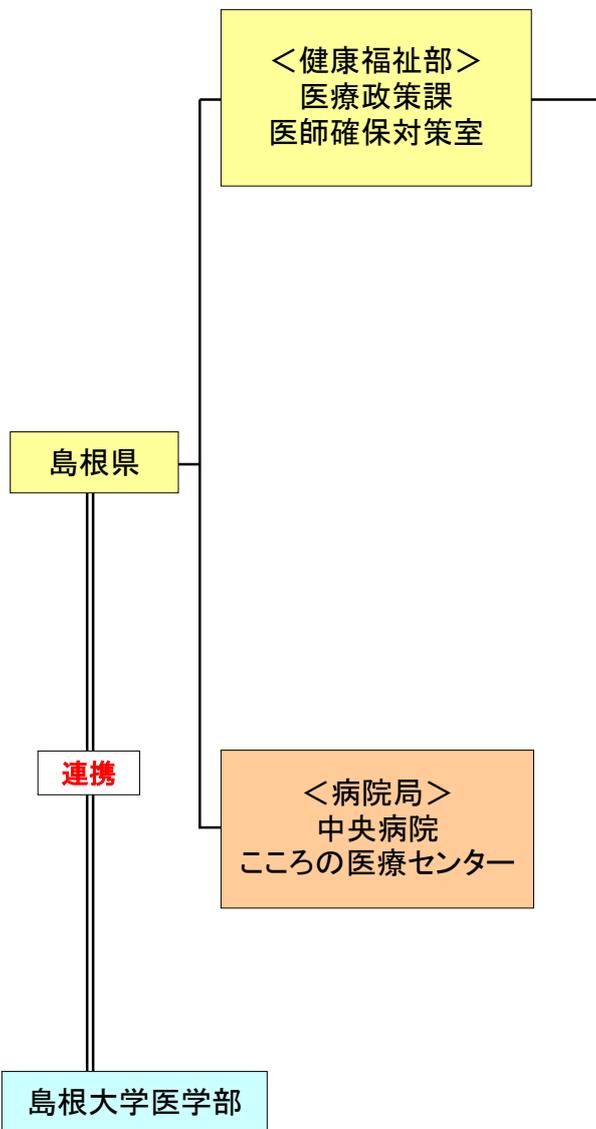


島根県の医師確保対策事業の概要

医師確保対策の三本柱



島根で働く医師を『呼ぶ』

島根で働く医師を『助ける』

島根で働く医師を『育てる』

<地域勤務医師確保枠 H14~>
 地域医療に将来携わる医師、専門研修を希望する医師を招聘し、県立病院で研修後、地域勤務 (H27.4月:6名)

<赤ひげバンク H14~>
 県外の医師等とネットワークをつくり、地域医療を志す医師を呼び込む (医療従事者の無料職業紹介所) H27.4.1時点 登録者数1,204名 (うち、医師424名、医学生542名)

<積極的な医師面談>
 各種広報媒体を活用した情報収集により県外医師との面談を行い、島根で働く即戦力の医師を招へいする

【出張訪問面談】
 H14~H23:193名、
 H24:19名、H25:16名、H26:16名

【医師確保実績】
 H14~H23:93名、
 H24:14名、H25:9名、H26:10名

<島根県へき地勤務医師確保協議会 H4~>
 地域勤務医師の派遣調整

<ブロック制 H7~>
 病院と診療所の医師が交代で勤務し、地域全体で患者さんを支える仕組み

<防災ヘリによる転院搬送 H10~>
 受入側病院医師が同乗 (H24:40件)

<隠岐島遠隔医療支援システム H11~>
 遠隔放射線画像システム、遠隔カンファレンスシステム (H24:4,742件)

<代診医の派遣 H12~>
 診療所等で働く医師が学会や研修会に参加できるように県立病院の医師が代診 (H26:603日)

<へき地医療拠点病院 H15~>
 H27.4現在、21病院を指定

<しまね地域医療の会 H16~>
 地域医療に関する情報交換の場

<ドクターヘリ H23~>
 県立中央病院が基地病院 (運行実績 H26:2.02件/日)

<全県医療情報ネットワーク(まめネット) H24~>
 全県的な医療情報ネットワーク基盤を構築し、医療機関相互の連携を促進 (H27.4現在参加機関449)

<自治医科大>
 全都道府県共同で運営
 県立中央病院で初期研修

<奨学金制度>
 将来県内で働くことを条件に奨学金を貸与
 H22:35人枠⇒H23:39人枠⇒H24~:40人枠⇒H26~:32人枠

<研修医向け研修資金貸付制度>
 後期研修医向け:5人枠

<研修医等定着特別対策事業>

①学生・研修医への働きかけ H14~
 地域医療に目を向けてもらうため、医学部学生を対象に夏季・春季研修等の開催

②魅力ある研修病院づくり H17~
 研修プログラム発展講習会、指導医講習会等を実施し、研修環境の整備を図る

<寄附講座「島根大学地域医療支援学講座」の設置 H22~>
 地域医療の魅力を医学生に伝える
 各診療科と連携して地域で必要とされる
 専門医・総合医の養成

<しまね地域医療支援センターの設置 H23~>
 若手医師のキャリア形成等を支援するために設置
 H25.3には一般社団法人化し、支援体制を強化

- <島根大学の取り組みと県の支援>**
- ①地域枠推薦入学 H18~(H18:6名、H19以降:10名/年)
 【県支援】島根大学医学部地域枠推薦入学者奨学金貸与
 - ②地域枠学士入学(3年次編入学) H19~(3名枠)
 【県支援】医学生地域医療奨学金貸与(~H21まで)
 - ③緊急医師確保対策枠推薦入学 H21~(5名)
 【県支援】島根大学緊急医師確保対策枠推薦入学者奨学金貸与
 - ④骨太方針2008、2009による定員増(H21:5名、H22:5名)
 【県支援】骨太方針2008、2009に対応した医学生地域医療奨学金貸与 H22~
 - ⑤新成長戦略による定員増(H23:2名)
 【県支援】新成長戦略に対応した医学生地域医療奨学金貸与 H23~
 - ⑥地域医療実習(6年生:3週間)
 【県支援】医学生地域医療実習(1~5年生:春季・夏季各3日程度)
 - ⑦地域医療教育学講座を設置(H19)
 地域医療施設と連携した学生実習・卒業研修等の指導管理調整
 地域医療・家庭医療専門医コース
 - ⑧地域医療支援学講座を設置(H22)
 地域医療に携わる医師の専門医・総合医の養成及び支援